

令和2年度学校関係者評価委員会

1. 日時 令和3年 6月 8日(火) 19:30～
場所 函館歯科衛生士専門学校 会議室

2. 出席者 委員 岩井 祐司 (函館歯科医師会 副会長)
鍋谷 大史 (函館歯科医師会 理事・教務委員長)
東 清美 (北海道歯科衛生士会 函館支部長)
南部 さおり (北条歯科医院 歯科衛生士)
澤谷 幸絵 (函館歯科衛生士専門学校 同窓会会長)

学校 奥 ひろみ (函館歯科衛生士専門学校 校長)
渡邊 恵里 (函館歯科衛生士専門学校 教務主任)
永橋 茜 (函館歯科衛生士専門学校 教務主任補佐)

3. 次第

- (1) 令和2年度自己点検評価報告書の説明
 - Ⅲ. 教育活動
 - Ⅳ. 学修成果
 - Ⅴ. 学生支援
 - Ⅵ. 教育環境
 - Ⅶ. 学生募集
- (2) 質疑・応答
- (3) 評価・意見交換 (改善意見、助言等)

上記をⅢ～Ⅶの領域ごとに行う

自己点検評価における領域ごとの学校関係者評価・意見

領域	項目	評 価 ・ 意 見
Ⅲ. 教育活動	1. 教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ○ OSCE(客観的臨床能力試験)を実施してから、臨床実習に入る時点の学生がレベルアップしている。函館歯科医師会でもその件の苦情がなくなった。試験の緊張感が良いのでは？ ○ 学校の『分かりやすい授業』のためのアンケートでは、分かりやすい教授方法、学生のニーズなどが分かった時点で、非常勤講師にも情報を開示するべきである。 ○ 国家試験対策に関する学生アンケートで、『出題数の多い重点教科にかかる時間が不足』とあるが、学生の要望は理解できる。教科の担当者は授業の際に出題数を考慮しているので学校で学生の要望に合わせて優先順位を付けて良いと思う。
	2. 資格試験	○ 特になし
	3. 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員の研修計画が予定通り進まない様子だが、函館市内でも会場設定が困難になった。 ○ 歯科衛生士の実務研修会の情報は、インスタ、フェイスブックなど歯科衛生士の繋がりで情報を貰える。または歯科衛生士の雑誌。
	4. 在学生の状況	○ 特になし
Ⅳ. 学修成果		○ 地元への就職者が減少していることが残念である。函館歯科医師会としても管内にどれくらい残ってくれるのか気になる。なるべく自宅に残ってほしい。
Ⅴ. 学生支援	1. 在学生への支援	○ 特になし
	2. 卒業生への支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中途採用の求人が多いが、学校で求職者の情報が少なく対応できていない。blankがあっても良いとは聞かすが、器材、薬剤のなど進化しており戸惑うのではないか。 ○ また、子育て中であれば急な休みもあり、周囲への迷惑が心配なのではないか。 ○ この課題は、学校と函館歯科医師会、北海道歯科衛生士会函館支部とで連携・協議が必要である。
Ⅵ. 教育環境	1. 施設・設備	○ 特になし
	2. 実習施設	<ul style="list-style-type: none"> ○ 臨地実習として介護予防事業をあげているが、市町村より施設の方が入りやすいが、一気に8件は難しいのではないか。 ○ 歯科技工所での実習も必要ではないか。殆どの歯科医院が外注になっており、医院との壁がある。どのような印象、模型が良いのか話を聞くことが重要ではないか。 ○ 実習が困難であれば、講話でもよいのでは。
Ⅶ. 学生募集		○ 今の中高生は紙媒体を見ないので、SNSを利用して広く周知しているのは良いこと。